

## エスペラント朗詠短歌通信添削 (5)

前田茂樹

### エスペラント朗詠短歌募集要項

- 1、一人二首まで
- 2、匿名可
- 3、テーマ自由
- 4、日本語で短歌の意味、もしくは原文の日本語の短歌を添える
- 5、あて先 ノーバ・ボーヨ編集部  
〒 621-8686 京都府亀岡市天恩郷大本本部内  
FAX 0771-25-0061 e-mail officejo@epa.jp
- 6、作品は添削後誌上で発表

---

### 作品 A

En novjarmaten'  
kolektiĝante idoj  
iras al la dom' ,  
en kiu vivas sane  
ja altaĝa bopatrin' .

<解説> この作品は、一行目に novjarmaten'、二行目に kolektiĝante と一見して一語の silabo がそれぞれ多すぎるように思われるかもしれませんが、これは一度朗詠してみると、作者が ritmo や拍子によく配慮されていることが分かります。内容面においても、「新年の朝、子供さんやお孫さんなど、ご家族が集まって、お年を召してなお壮健な（作者の）おしゅうとさんの家にご挨拶にゆく」という、新年の幸せな家族のほのぼのとした雰囲気を感じら

れます。この歌は、文法的にも拍子の面でも問題はありません。今後の課題として、朗詠短歌としての文芸性・芸術性を追求して欲しいと思います。

---

## 作品 B

Karmemor' pri vi  
preĝadi tutan nokton  
en SECBUNA FEST'  
rigardi neĝpejzaĝon  
de la SANIN revenvoj' .

<解説> この作品は karmemor' という語を preĝadi と rigardi という不定形の動詞がそれぞれ説明するという文型。この文型は主語を省くことができるため、silabo の数が少なくてすみませんが、時の限定ができないため、ややもすると説明的な文になります。三行目の en SECBUNA FEST' は、このままで silabo の数は5つということになりますが、SEC は SECU のほうが正しいと思います。大本では「大本節分大祭」は、la Granda Festo de Secubuno と表記しています。ただ、ここでは応急処置として en Secubun-fest' としておきましょう。これは最後の行の SANIN にも言えることですが、silabo をすべて大文字表記にすることは silabo の少ない短歌のような詩歌では読みにくくなるので避けたほうがよいと思います。この第五行目の de la SANIN revenvoj' は 四行目の rigardi neĝpejzaĝon からつづく文ですが、de la SANIN revenvoj' という表現は少し意味を分かりにくくしています。この SANIN は「山陰線」の意味、つま

り「山陰線の電車で帰る途中、車窓から雪景色を見た」というくだりで、rigardi neĝpejzaĝon revenvoje tra la trajn'あるいは rigardi neĝpejzaĝon tra la trajno al la hejm' 本来なら tra l' fenestro de la trajn' としたいところですが、限られた文字数で表現しきれません。したがって、「山陰線」は諦める必要があります。

### 参考例

Karmemor' pri vi:  
preĝadis ni tutnokte  
en Secubun-fest'  
kaj vidis neĝpejzaĝon  
tra la trajno al la hejm' .

---

### 作品 C

Neĝi Diĝarden'  
ho! bela pejzaĝ' arboj;  
en Ĉoojokan  
la printempo frua  
restus kiel Majstrin' .

<解説> この作品 C は文法も考えながら一行ずつ添削してまいりましょう。さて、その一行目は silabo の数も拍子も合っています。ただ、文章として成立していません。Neĝi は無主語動詞で「雪が降る」という意味、別な言い方をすると、この動詞そのものに主語が含まれている語なのです。これと同種の動詞に pluvi「雨が降る」があります。また、ここで動詞の不定法を使っても意味がありません。

一行目は、正しくは、Neĝas en Diĝarden’ ですが、前置詞 -en を置くため文字数が六文字となり一文字多くなってしまいます。そこで二行目へ目を移し、一行目との文のつながりを見てみましょう。まず、どういう情景なのかを考えます。作者は神苑に雪が降っているのを見ます。庭の木々も景色も白く雪化粧してその美しさに感嘆します。これが一行目と二行目の作者が表現したいところです。ところが、この行には問題が二つあります。まず、感嘆詞 -ho の使い方と、pejzag’ arboj; という表現です。作者が望む表現は、Neĝas en Diĝarden’ --- に ho, kia bela pejzaĝo! これでは一行目が六文字、二行目は八文字 おまけに pejzaĝo で拍子が狂ってしまいます。どうやら、この作品 C の手直しは最後の行まで含めて考える必要がありそうです。三行めの en Ĉoojokan は、en Ĉojokan が正しく四文字となります。この句は、他の行に置くことを考えましょう。また、四行目の、la printempo frua (早春) は六文字で、弱弱強弱強弱となり拍子も狂っています。この語も la nova jaro という表現に変えて、他の行に置くことを考えましょう。最後の行は六文字で、kiel の使い方に難があります。紙面の都合がありますので、これらを総合して以下のように添削してみました。

### 参考例

Blankas Diĝarden’  
en la neĝado pura  
de la nova jar’ ;  
laŭdire, en Ĉojokan  
Okupiĝas jam Majstrin’ .